



令和3年9月30日発行

かんのん町保育園

9月の感染症情報

溶連菌感染症 1名

昼間は汗ばむ日もありますが、朝夕は冷え込むようになりました。お布団も洋服も衣替えの季節です。この時期は寒暖差があり風邪をひきやすいので、体が冷えてしまわないように下着を着て、上着などで体温調節をしましょう。

予防接種を計画的に受けましょう！

予防接種は自然に感染すると重症化しやすい病気に対して作られています。病気にかかる前に免疫をつけたり、感染を防いだり、かかってしまっても軽くて済むようにするものです。「任意接種」は接種してもしなくてもいいのではないかと思われがちですが、重症化しないためにも任意接種も受けておくことが望ましいでしょう。

発症を抑え、肺炎や脳炎などの合併症を防ぐ、重症化防止効果があります。ワクチンは効果を発揮するまでに約2週間かかり、半年程度効果が期待できます。急性の病気にかかっている場合や発熱している子は予防接種を避けた方がよいでしょう。

◎予防接種を受けたら健康ノートに記入してください。

同時接種のいいところ！

☆接種した日から免疫が付き始めるため、より多くの病気に対して早く守られます。

☆病院に行く回数が減ります。

同時接種は別々の場所に接種し、安全であることが確認されています。



10月10日は目の愛護デーです！

子どもの目は毎日発達していて、両目の視力機能は6歳頃にほぼ完成するといわれています。その後視力が低下するのは、幼いころの姿勢や体の動かしかたが関係しているそうです。自然の中で十分に遊ばせ、外の景色をたくさん見せることで子どもの視力を育てていきましょう。

▽こんな見方は危険信号！

- テレビや絵本に近づいて見る
明るい戸外でまぶしがる
目を細めて見る
上目遣いで物を見る
目つきが悪い、目が寄っている
見るときに首を曲げたり、頭を傾けたりする



このような症状がみられると斜視や弱視の可能性が考えられます。子どもは視力が悪いことを自覚できないため、上記のような症状がないか普段から気にかけて見るようにしてください。

子どもに起こりやすいけがや事故、その時の対応



鼻血

→子どもは鼻の粘膜が弱いので鼻をぶつけたり、指でいじったりすることですぐに鼻血が出ます。小鼻を強くおさえて止血すれば通常は10分程度で止まります。鼻の付け根を冷やすのも良いです。20分以上出血が止まらない場合は、病気の可能性もあるので受診しましょう。鼻血が出た時に上を向かせると、血がのどに流れて吐き気をもよおす場合があるので頭は下に向かせましょう。



やけど

→やけどは、ただちに冷やしてから受診しましょう。やけどを少しでも軽くするにはすぐ冷やすことです。出来れば流水や氷などを使い、20分以上冷やすようにしましょう。やけどの際に水ぶくれが生じることがありますが、これが破れると感染症を引き起こす恐れがあります。もし水ぶくれが出来た場合には、破れないように注意し清潔な布でふんわりと覆い受診するようにしてください。



肘内障

→関節の骨がずれた状態のことです。高い所から落ちて肩やひざなどを強く打ったり、転んで手を突いたり、子どもの腕を引っ張ったりしたときなどに起こりやすいです。痛がるほかに、腕や足がぶらぶらしていたり、いつものように手足を動かさない、関節の動きがおかしい、など症状が見られたら動かさず下から支え、すぐに整形外科を受診してください。家庭で起きた際には、保育園で過ごすにあたっての肘内障の聞き取りシートをお渡しするので、記載して持ってきてください。

